

事業活動実績報告書

施設名	和光幼稚園
教育理念	「健康」と「表現」の領域を2大柱とし、子どもの心身ともに健やかな成長と、個性豊かな感性を養う
事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	和太鼓演奏
2 実施期間	令和 5 年 5 月 17 日 ~ 令和 6 年 3 月 6 日

3 取組概要	<p>(取組日) 令和 5 年 5 月 17 日 ~ 令和 5 年 7 月 20 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>〈1学期:和太鼓教室〉年中児が毎月、和太鼓教室の保育を行っている。講師を招き、日本の文化や伝統に触れながら、体力やリズム感を養うとともに、和太鼓の響きを味わっていく。講師の小泉先生にバチの持ち方や叩き方、叩く位置を教えてもらう。バチを持つことも、叩くことも初めての子ども達。バチの重さや太さに驚きながらも、どんな音がするのかを試すように和太鼓を叩く姿がある。年間を通して、ミッキーマウスマーチに合わせて叩く練習を行う。順番を待っている間は、手作りのバチで各々がリズムを叩くが、リズムに合わせて叩くことは、なかなか難しいので、クラスの保育者も個々に寄り添い一緒にリズムを叩いていく。</p> 
	<p>(取組日) 令和 5 年 7 月 21 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>〈夏祭り〉園の行事である夏祭りに、講師の小泉先生をお招きし、盆踊りの曲に乗せて、和太鼓ならではの軽快なリズムを演奏していただいた。曲は「まんまる音頭」と「ピカチュウ音頭」。年長児はホール、年中児～満3歳児は園庭にて踊るので、子ども達に本物を体験してもらうために、講師にはホールと園庭で1曲ずつ演奏していただいた。和太鼓を囲み、和太鼓の音色やリズムが響く中、子ども達は盆踊りを大いに楽しみ、踊ることが出来た。コロナ禍もあり、以前に比べ、地域での盆踊りを経験している子どもは少なくなっている。日本古来の夏の風物詩である盆踊りを、生の和太鼓演奏が加わることで、より雰囲気を感じ、楽しむことが出来た。また、全園児が和太鼓の存在や役割や雰囲気を感じる機会になったと思う。</p> 
	<p>(取組日) 令和 5 年 9 月 13 日 ~ 令和 5 年 12 月 13 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>〈2学期:和太鼓教室〉子ども達は、和太鼓を叩くことに少しずつ慣れてきた。盆踊りの時の和太鼓のように、曲に合わせてリズムを意識しながら叩ける子もいるが、その一方で、太鼓を叩く力が弱かったり、太鼓を叩く際の身体の使い方がうまくできずに戸惑いながら叩く子どもも多い。講師がバチの握り方や太鼓の叩く位置を個別に教え、一緒に叩くことで腕の振り上げ方、振り下ろし方を教えてくださっていた。クラスの保育者は、リズムを叩くことに慣れない子どもには、手を取りながら個別に対応している。</p> 

	<p>(取組日) 令和 6 年 1 月 15 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>〈獅子舞・和太鼓鑑賞会〉小泉先生所属の「ひさおの会」の皆さんが、日本の伝統文化である獅子舞の演舞と迫力ある和太鼓演奏を披露してくださいました。初めて見る獅子舞に怖がる子もいたが、熱心に見入っている子が多かった。獅子舞の細かな動き、所作の内容を子ども達なりに理解し楽しんでいました。和太鼓演奏では、会場中に響き渡る和太鼓の力強い音や体に伝わってくる太鼓の振動に、子ども達も保育者の私達も圧倒され、大変感動した。和太鼓の持つ本物の響きを間近で体験し味わうことができた。また演奏後には、和太鼓を叩く体験があり、どの学年の子も夢中で叩いていた。</p>	
3 取組概要	<p>(取組日) 令和 6 年 1 月 24 日 ~ 令和 6 年 3 月 6 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>〈9学期:和太鼓教室〉子ども達の姿に、明らかな変化があった。和太鼓を叩くぞ！といったような意欲満々な姿がどの子にも見られた。今までは、バチを握る力が弱かったり、叩く力が弱かったり、自信なさげに叩いていた子どもが多かったが、和太鼓演奏鑑賞後は、リズムに乗せて力強く叩く子が急に増えた。実は、2学期までは、和太鼓に関する進歩が例年に比べ緩やかな子ども達だったが、最終的には例年より難しい叩き方(和太鼓の中心だけでなく、縁を叩くリズムを入れる)に挑戦する子ども達が数多くいた。また、自分の順番以外の時も、「ドンガドン！」などと大きな声でリズムを言いながら、手作りのバチで真剣な眼差しで積極的に楽しみながら練習している子が多かった。クラスの保育者が個別に対応することなく、全員が楽しくリズムを叩けるようになった。(待っている子どもたちのバチの位置が高くなっている姿に、やる気を感じます。)</p>	
		
	<p>(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p>	<p>写真添付 活動内容が分かるもの 取組に関するもの</p>

効果検証報告書

施設名	和光幼稚園
教育理念	「健康」と「表現」の領域を2大柱とし、子どもの心身ともに健やかな成長と、個性豊かな感性を養う

事業の区分(5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	和太鼓演奏
2 事業概要	和太鼓教室の講師を、本園の行事に招き、本格的な和太鼓の演奏を披露してもらうことで、日本文化に触れるとともに、和太鼓の素晴らしさを伝え、年中児が毎週行っている「和太鼓」の保育において、意欲的に和太鼓をより楽しく叩くことへ繋げていく。

計画時

3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 本園、和太鼓教室の講師である小泉氏が、園行事「夏祭り」で、子どもたちが踊る曲に乗せて、和太鼓ならではの軽快なリズムを本格的に演奏する。毎週子どもたちと練習している和太鼓の本物のリズムと音色を披露する。 「獅子舞鑑賞会」では、小泉先生率いる和太鼓奏者の方々が、日本の伝統文化である獅子舞の演舞と本格的な和太鼓演奏を子どもたちに披露し、和太鼓の迫力ある音やリズムを伝える。
--------	--

事業後

3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 講師の先生の和太鼓の演奏は、普段の和太鼓教室と違って、和太鼓とはどういったものなのかを、子ども達が体験する良い機会になった。自分たちが叩いている「和太鼓」のことを子ども達はあまり知らないのではないかと、という思いがあった。コロナ禍の影響もあり、盆踊り自体を体験している子どもも確実に減少している中で、和太鼓を中心に輪になり踊る体験や、獅子舞や和太鼓演奏を間近で聴き、日本の伝統文化に触れながら、和太鼓の本物の音色やリズム、そして振動や迫力は、演奏会がなければ体験できなかったことである。その後の和太鼓教室の様子からも、子ども達にとって、和太鼓を知る、本当に良い機会になったと思う。
-------------	--

計画時

4 事業のねらい	本園は、「健康」と「表現」の領域を教育の2大柱とし、子どもたち心身ともに健やかな成長を促すとともに、個性豊かな感性を養っていくことを特色としている。 和太鼓教室は、本園において長年行われている保育である。日本の文化や伝統に触れながら、リズム感を養うとともに、和太鼓の響きを十分に味わっている。本物の和太鼓演奏を聴く機会をもつことで、和太鼓により興味や関心を持ち、年中児においては、毎週の保育の中で行っている和太鼓を、より楽しくリズムを叩いたり、新しいリズムに挑戦したい気持ちが芽生えるようにしていく。また、本物の和太鼓の音を感じることで、より力強く太鼓が打てるようにしていく。
----------	---

事業後

4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 本園において、和太鼓教室は「健康」と「表現」の領域の保育において、特色のある保育活動になっている。ただ、近年の子ども達にとって、和太鼓はあまり近い存在とは言えないのかもしれない。和太鼓を知るために、盆踊りや獅子舞鑑賞会で和太鼓の演奏を取り入れてみた。その結果、楽しいリズムを知ったり、迫力ある音を実感したりする中で、子ども達の気持ちに大きな変化があった。力強く叩きたい気持ちやかっこよく叩きたいなど、やってみたい！と思う気持ちがとても出てきた。大きな音を鳴らすためには、強く握ったり、腕をもっと上から振り下ろすなど、体力的な向上にも繋がる。リズムカルに叩くために、難しいリズムに挑戦したり、待っている間も意欲的に自主的に練習をしてみたり、「健康」と「表現」の領域での成長が多く見られた。
-------------	---

5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 夏祭り(7月21日)：園の行事である夏祭りに、和太鼓講師の小泉氏を招き、子どもたちが踊る曲に乗せて、和太鼓ならではの軽快なリズムを本格的に演奏していただく。子どもたちは、和太鼓の演奏の入った曲で、日本古来の夏の風物詩である盆踊りの雰囲気味わいながら、楽しんで踊ってほしい。 獅子舞鑑賞会(1月)：和太鼓講師の小泉氏率いる和太鼓奏者の方々が、日本の伝統文化である獅子舞の演舞と本格的な和太鼓演奏を子どもたちに披露し、和太鼓の迫力ある音やリズムを味わってほしい。子どもたちに、自分もあんなふうに叩いてみたい、と思う気持ちへ繋げる取り組み。
---------	--

事業後

5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 盆踊りでの和太鼓の軽快でリズムカルな演奏は、盆踊りの雰囲気を盛り上げ、子ども達は楽しく踊ることが出来た。十分に夏の風物詩である盆踊りの雰囲気を味わうことも出来た。和太鼓そのものというよりは、子ども達は踊ることに一生懸命で、和太鼓が加わった盆踊りの雰囲気を楽しむといった感じが強い。和太鼓そのものにもう少し焦点をあてても、よかったかもしれない。 獅子舞鑑賞会では、和太鼓の本格的な演奏を鑑賞することが出来た。想像以上の音量と振動が伝わって迫力満点の演奏であった。子ども達は、和太鼓の音ってあんなに大きいんだ、かっこいいんだ、あんなふうに叩いてみたい！と思ったに違いない。実際に3学期の和太鼓教室の音は力強くなった。
-------------	---

計
画
時

6 環境構成	<p>夏祭り：場所 和光幼稚園園庭・ホール 準備物：和太鼓(ホール用・園庭用の2台) 環境構成：年長児はホールにて、年中児～満3歳児は園庭にて、和太鼓を中心に円形に並ぶ。夏祭りに向けて練習してきた「まんまる音頭」と「ピカチュウ音頭」を小泉氏による本格的な和太鼓の演奏に乗せて踊る。 獅子舞鑑賞会：場所 和光幼稚園ホール 準備物：全て小泉氏が準備 環境構成：獅子舞や和太鼓の演奏が鑑賞できるように、小さな年齢のクラスから順に床に座る。年長児のみ椅子に座る。獅子舞が移動しやすいように、中央部分を通路用にあけておく。(お誕生日会の配置で座る)獅子舞を怖がる子がいることを想定し、保育者はすぐに寄り添えるようにしておく。</p>
--------	--

事
業
後

6についての効果・検証	<p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <hr/> <p>夏祭り：和太鼓演奏は、園庭とホールの2か所で行ったが、事前に保護者には伝えていなかったところ、どちらが先に叩くかを知らせてほしかったとの意見をいただいた。来年度は、保護者にもお伝えし、皆で盆踊りの雰囲気より味わえるようにしたい。ホールの和太鼓を自由に触れるようにしていたが、安全面への配慮事項の必要性を感じた。 獅子舞鑑賞会：「ひさおの会」の皆さんを初めてお招きしたが、当日体調不良で欠席が数名いた。職員が飛び入り参加をしたりして演目は全部していただいた。最後に、中太鼓と小太鼓を叩く体験を年少から年長児の全園児が行う。子どもには中・小太鼓は音が鳴らしやすく、皆、楽しそうに叩き、子どもによっては連打をするなど、和太鼓演奏の興奮そのままに軽快に叩いていた。今後の和太鼓教室にも良い影響が期待できそうだ。</p>
-------------	---

7

期待される効果
児童の姿

<p>取組を通じて期待される児童の姿や効果等</p> <hr/> <p>夏祭り：今年度、子どもたちは6月頃から「まんまる音頭」や「ピカチュウ音頭」を集会後のリズム運動やプールの準備運動として踊っている。普段はCDのみで踊っているこの2曲を、夏祭りでは和太鼓教室講師が、本格的な軽快なリズムで和太鼓を演奏して盛り上げる。子どもたちも、和太鼓が加わった演奏に、より楽しく踊る姿が期待できる。年中児も、普段叩いているリズムとは違う和太鼓のリズムを聴くことができ、和太鼓の存在感や楽しさを実感できる機会になる。 獅子舞鑑賞会：獅子舞の演舞とともに、和太鼓の演奏を聴く。この時の和太鼓の演奏は、数人での和楽の演奏となり、子どもたちは、初めて聴くことになる。和太鼓の迫力ある音やリズムを聴き、凄いなあと思うと同時に、あんなふうに叩きたいな、自分も頑張ろう！と、毎週の和太鼓に意欲的に取り組もうとする姿が期待される。</p>
--

事
業
後

7についての効果・検証	<p>事業実績から推測される効果や改善点等</p> <hr/> <p>夏祭り：和太鼓は、ホールと園庭の2か所で行ったが、初めをどちらで叩くかを保護者には周知していなかったが、知りたかったとの意見をいただいた。次回は事前に周知し、皆で雰囲気より味わえるようにしたい。 獅子舞鑑賞会：「ひさおの会」の皆さんを初めてお招きした。当日は、体調不良の方が数名出るアクシデントがあったが、職員が飛び入りで参加をしたりして、演目はすべて行うことが出来た。和太鼓は、想像以上の大音量で迫力満点な楽しい会になった。最後に、中太鼓と小太鼓を体験する時間を作っていたが、年少児から年長児の全園児が順に叩くことが出来た。音がとても鳴らしやすい中太鼓と小太鼓を選んでくださったことで、子ども達はとても楽しそうに、子どもによっては連打で和太鼓を鳴らしていた。来年度、和太鼓教室を行う年少児にとっても、とても良い経験になったと思う。</p>
-------------	--

8

効果検証
総括

<p>事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて</p> <hr/> <p>日本の伝統文化、伝統芸能に触れる中で、「和太鼓」というものを知り、そして親しみ、おおいに興味をもってくれることを期待し、そして、和太鼓教室の教育活動においても、きっとより楽しく和太鼓を叩いてくれるだろう・・・という思いで、この事業を企画した。夏の盆踊りでは軽快なリズムと楽しい雰囲気を、1月の和太鼓演奏では力強い迫力満点の和太鼓を、この2つの楽しさを子ども達は体験し、「和太鼓」を多面的に知ることが出来た。特に1月の和太鼓演奏を聴いた後の和太鼓教室では、子ども達の意識が変わったと講師の小泉氏も感じた。音も力強く大きくなり、リズム感もよくなっていた。力強く叩くということは、パチをしっかりと握るということだけではなく、しっかりと立つ、腕をより上から力強く振り下ろす、という動作がさらに加わらないとできない。腕の可動域が広がっていると講師が教えてくれた。また、子ども達の意欲もとても伝わってきた。実は、この学年は、例年より緩やかな成長であったが、最終的には、例年より難しいリズムに挑戦し叩けるようになった子が数多くいたので、本当に驚いた。想像以上の体験ができた和太鼓鑑賞は、ぜひ来年も続けて行いたいと思う。今回の子ども達の成長からは、知ることの大切さを改めて感じた。知ったその体験を自分もやってみたくと思うような教育・保育をこれからも続けていきたい。また同時に、知らなかった事実も受け止めなければならない。今後の教育・保育においても、子ども達の現状をしっかりと把握しながら、その姿に寄り添い、成長に繋がる活動内容を行っていきたいと思う。</p>
--